

令和7年度 シラバス

社会福祉士養成通信課程（短期）

学校法人北杜学園

仙台医療福祉専門学校

目 次

社会福祉の原理と政策	1
地域福祉と包括的支援体制	2
ソーシャルワークの理論と方法	3
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
ソーシャルワーク演習（専門）	5
ソーシャルワーク実習指導	7
ソーシャルワーク実習	9

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
社会福祉の原理と政策	武山和弘
時間数	授業形態
180 時間	通信
学習の時期	レポート課題の回数
令和7年5月～12月	2回
レポート課題の提出期限	添削の時期
1回目 令和7年8月末日 2回目 令和7年12月末日	提出から3ヶ月以内
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 2. 社会福祉の歴史的展開の課程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 3. 社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 4. 福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉施策の課程を結び付けて理解する。 5. 福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 6. 福祉サービスの供給と利用の課程について理解する。 7. 福祉施策の国際比較の視点から、日本の福祉施策の特性について理解する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の原理 2. 社会福祉の歴史 3. 社会福祉の思想・哲学、理論 4. 社会問題と社会構造 5. 福祉施策の基本的な視点 6. 福祉政策におけるニーズと資源 7. 福祉施策の構成要素と過程 8. 福祉施策の動向と課題 9. 福祉施策と関連施策 10. 福祉サービスの供給と利用過程 11. 福祉政策の国際比較 	
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新社会福祉士養成講座 第4巻 社会福祉の原理と政策（中央法規）</p>	<p>【認定の方法】 課題レポートにより評価する。</p>

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
地域福祉と包括的支援体制	武山和弘
時間数	授業形態
180 時間	通信
学習の時期	レポート課題の回数
令和7年5月～12月	2回
レポート課題の提出期限	添削の時期
1回目 令和7年8月末日 2回目 令和7年12月末日	提出から3ヶ月以内
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。 2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。 3. 地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。 4. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。 5. 包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。 6. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的考え方 2. 地域行財政システム 3. 福祉計画の意義と種類、策定と運用 4. 地域福祉の変化と多様性・複雑化した地域生活課題 5. 地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 6. 地域共生の実現に向けた多機関協働 7. 災害時における総合的かつ包括的な支援体制 8. 地域福祉と包括的支援体制の課題と展望 	
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新社会福祉士養成講座 第6巻 地域福祉と包括的支援体制（中央法規）</p>	<p>【認定の方法】</p> <p>課題レポートにより評価する。</p>

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
ソーシャルワークの理論と方法	武山和弘
時間数	授業形態
180 時間	通信
学習の時期	レポート課題の回数
令和7年5月～12月	2回
レポート課題の提出期限	添削の時期
1回目 令和7年8月末日 2回目 令和7年12月末日	提出から3ヶ月以内
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 2. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 3. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。 4. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 5. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 2. ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 3. ソーシャルワークの過程 4. ソーシャルワークの記録 5. ケアマネジメント 6. 集団を活用した支援 7. コミュニティワーク 8. スーパービジョンとコンサルテーション 	
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新社会福祉士養成講座 第12巻 ソーシャルワークの理論と方法（中央法規）</p>	<p>【認定の方法】</p> <p>課題レポートにより評価する。</p>

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	武山和弘
時間数	授業形態
180 時間	通信
学習の時期	レポート課題の回数
令和7年5月～12月	2回
レポート課題の提出期限	添削の時期
1回目 令和7年8月末日 2回目 令和7年12月末日	提出から3ヶ月以内
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 3. 社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 4. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークにおける援助関係の形成 2. ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 3. ネットワークの形成 4. ソーシャルワークに関連する方法 5. カンファレンス 6. 事例分析 7. ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 	
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新社会福祉士養成講座 専門科目第6巻 ソーシャルワークの理論と方法（中央法規）</p>	<p>【認定の方法】</p> <p>課題レポートにより評価する。</p>

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
ソーシャルワーク演習（専門）	宇田川佳浩・武山和弘
時間数	授業形態
324 時間	通信及び面接
学習の時期	レポート課題の回数
令和7年5月～令和6年12月	4回
レポート課題の提出期限	添削の時期
1回目 令和7年8月末日 2回目 令和7年8月末日 3回目 令和7年11月末日 4回目 令和7年11月末日	提出から3ヶ月以内
面接授業の回数	—
4日	—
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 2. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 3. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 4. 地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 5. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 6. 実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 7. 実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 次に掲げる具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待（児童・障害者・高齢者等） ・ひきこもり ・貧困 ・認知症 ・終末期ケア ・災害時 ・その他の危機状況にある事例 2. 1に掲げた事例等を題材として、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。 	

- ・ケースの発見
- ・インテーク
- ・アセスメント
- ・プランニング
- ・支援の実施
- ・モニタリング
- ・支援の終結と事後評価
- ・アフターケア

3. 2の実技指導にあたっては、次に掲げる内容を含める。

- ・アウトリーチ
- ・チームアプローチ
- ・ネットワーキング
- ・コーディネーション
- ・ネゴシエーション
- ・ファシリテーション
- ・プレゼンテーション
- ・ソーシャルアクション

4. 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行う。

- ・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
- ・地域アセスメント
- ・地域福祉の計画
- ・組織化
- ・社会資源の活用・調整・開発
- ・サービスの評価

【使用テキスト・参考文献】

最新社会福祉士養成講座 専門科目第7巻
ソーシャルワーク演習（中央法規）

【認定の方法】

課題レポート及び面接授業の出席状況、受講態度により評価する。

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
ソーシャルワーク実習指導	宇田川佳浩・武山和弘
時間数	授業形態
243 時間	通信及び面接
学習の時期	レポート課題の回数
令和7年6月～令和7年12月	3回
レポート課題の提出期限	添削の時期
1回目 令和7年7月末日 2回目 令和7年9月末日 3回目 令和7年11月末日	提出から3ヶ月以内
面接授業の回数	—
3日	—
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 3. ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 4. 実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習と実習指導の意義（スーパービジョン含む。） 2. 多様な施設や事業所における現場体験学習や見学実習 3. 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・機関、地域社会等に関する基本的な理解 4. 実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解 5. 実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解 6. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 7. 実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 8. 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成及び実習後の評価 9. 巡回指導 10. 実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成 11. 実習の評価及び全体総括会について 	
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>最新社会福祉士養成講座 専門科目第8巻</p>	<p>【認定の方法】</p> <p>課題レポート及び面接授業の出席状況、受</p>

ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（中央法規）

講態度により評価する。

令和7年度 社会福祉士養成通信課程（短期）シラバス

科目名	授業担当者
ソーシャルワーク実習	宇田川佳浩・武山和弘
時間数	授業形態
240 時間	実 習
学習の時期	—
令和7年6月～令和7年12月の間の30日間	—
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 2. 支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 3. 生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内部資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 4. 施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 5. 総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 	
<p>【授業内容の概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 2. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 3. 利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 4. 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護活動とその評価 5. 多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 6. 当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ 7. 地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 8. 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際（チームマネジメントや人材管理の理解を含む。） 9. 社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解 10. ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解 <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ ・ネットワークング ・コーディネーション ・ネゴシエーション ・ファシリテーション ・プレゼンテーション ・ソーシャルアクション 	
【使用テキスト・参考文献】	【認定の方法】

最新社会福祉士養成講座 専門科目第8巻
ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（中央法規）

実習指導者と実習担当教員間にて達成度合いに関する意見交換を実施、最終決定は実習指導者による評価とする。（評価資料として実習記録を参考にする。）